

## 5. 子育て支援について

06.5

### ◇5. 1 子育て支援について

06.5

子育てが安心してできるよう、津々浦々から議論がなされている。子育てを社会的な問題や経済的な問題として論議していくことは当然である。ここで私は、多少建築的な視点から家庭形成のための大変な行為が子育てであることを主張したく、筆をとることにした。

「子育て支援」について、家庭の働き手の問題や経済的な問題は別にして、もっと人間関係の中で考えてみることにして、私の三つの思いを記す。

- (1)、子と親の育子環境をどうするか。
- (2)、青少年の健全な育成を子育ての次元からどう積み上げるのか。
- (3)、子育てを終えた方や子育て真最中の大人自身が子育て支援の理解をどう深めていくのか。

これらの思いは何の事はない、子育て支援を子育ての枠を越えて「大人の問題として捉えてみては」という問題提起そのものである。もちろん、「大人の健全な精神が如何に子育てに必要か」といったことはこれまでも指摘されてはいるが、子供の成長・発達過程との関連でアプローチしたものは少ない。

そこで私は、子供の感性を子供と親が一緒になって育むことが精神的満足を追及した子育て支援のひとつと考えた。そして、私は成長発達過程の根幹の一つとして「子供の感性を如何に育んでいくのか」を問題にして、これまで、子供の造形教室(2000, 2001)や母親のための造形教室(2003)を主宰し実践してきた。

しかしながら、こうした感性の育成にも親と子供の住まい環境の健全さが必要条件となっていることはいうまでもないが、(感性育成の)周辺環境の整備はお粗末極まりなく不十分なように見える。確かにこうした意味で議論花盛りである「子供の居場所の問題」が問題を解決するかのように思われるが、居場所そのものがセンス育成環境そのものではないことに加えて、居場所という特定の空間が限定されるのは子供と大人の交流がそこなわれることにもつながる。それでも居場所というならば、家の中や地域の中で特別に居場所をつくるのではなく、家も街もすべてが居場所となるようにするべきである。こうした趣旨のアプローチがせひとも欲しいものである。

私は、これまで市民・子供教育に関する学術的なある委員会に委員として参加し、子供環境の整備について研究するとともに、こども学会(子供環境を問題にする専門の学会)にも会員として参加して、保育士や子育て関係のNPOの方々と具体的な実践を討議してきた。その結果、やるべきことは、日々多忙の生活において感性をキーワードにして大人自身の子供時代の感性を呼び戻しながらの実践活動の展開であることを確信した。

p.s注: 造形教室は、富山県民カレッジの自遊塾というシステムのなかで実施したものであり、月2回の頻度で年6回、各回

は2時間ほどで、メニューは、写真コーラージュや軸木造形、和紙による照明器作成などである。

### ◇5. 2 人間性の醸成からはじめる子育て 09.07.17

子育ては大人の責任。まずは大人が人間性を保持すること。異性と出会い、子供を愛しみ、といった人間本来の行動がないがしろにされそうな現代技術文明社会だからこそ、こうした問題に対し声を大にしたくなつた。

働く女性が子育てしやすいように、社会全体がどう取り組むかは大事な問題である。これについては他の専門のお方に任せ、私は、我らの生活の営みをもっと健全にすべしとして当該問題をアプローチしたい。

少子化問題を見ると、結婚して出産する方は概ね二人程度と安定しているにもかかわらず、一方では結婚しない男女の比率が極めて高い。これを何と見るか。結婚よりも自由が追求されるべきという声が聞こえてくるが、そうではない。今日的社會のありようが問われているといいたい。理由は二つ。一つには、結婚して良い家庭をつくり子供を育むといった本来の人間性を奪っているではないのだろうか。二つには、今の世の中、そこそこ働ければ生活でき、人と交わらなくても生活できるといった風潮が人間の絆という大事なものをも失わせているのではないか。つきつめれば、今日的な人間性の問題である。

確かに、昔は家庭を持って協力しないと食っていけないという(物質的に満たされていない)状況であった。それが今、社会が豊かになった。しかし、その豊かさが物質的面にのみ特化されてもはやされ、最も大事な人間性の本質について少しも議論してこなかったといつても過言ではない。今の時代だからこそ、人間性は、絆は、人間の信頼は、などなど、本当に求められる新しいパラダイムが必要となっている。

私はこうした観点で、一番の問題を子育てに絞り、大人が子育てを通して人間性を育んでいくといったことを世の中がもっともっと実感するとともに、こうした実践が社会に定着して大きな世論を喚起すると思っている。

では具体的にどうする?といわれたら、各自、人間性をホットにするしかないと言いたい。以下の二点について、取り組みたいと思っている。

#### 1. 交流は交じり合うこと、語り合あうこと。

異業種交流だの異年齢交流だのいわれているが、(情報交換や親睦ということではなく、もっと身近に交流という意味で)そんなにしゃちこばらなくても、ごく普通に職場で、地域で、それこそご近所さんとおしゃべり合えばいいのに、といつも思っている。そこではいきなりお互いの理解ではなく、(もっと身近

に）語り合うことが一番であり、さすれば人間性の語りが生まれてこよう。

## 2. 生活観漂う教育。生活を楽しむ。

特に大事にしたいのは、初等中等教育において、もっと生活感が漂う教材やシチュエーションで人間性を前面に押し出した教育をしていただきたいものである。その意味で、皆さんで、もっと生活を楽しもうよ、といったことが津々浦々でにじみ出てくるように、各自心がけるとともに、関係するシステムもまた人間性をより押し出して欲しいものである。街や家の中に、そんな雰囲気が醸成されることこそ皆さんで知恵を絞りたいものである。

本アプローチは経済的政策と両輪の関係にあると思ってい  
る。今、この種の観点をすすめていきたいものである。愛、信  
頼、命など健全な生活から育んでいきたいものである。